老健 さきたまだより

No.63
2019.3

Contents

◆ 老健を地域づくりの中心に
会長 小川郁男 …… 2
「永年勤続表彰」受賞者 …… 3
◆ 腰痛予防〔第1回〕 …… 4
◆ 第29回全国介護老人保健施設大会 埼玉 …… 6・7
◆ 研修会報告「重度者受け入れ」のシンポジウム …… 8・9・10
◆ 新会員施設紹介 …… 10
◆ 第1回市民公開講座 …… 11
◆ 埼老健介護百人一首優秀歌 …… 12

会長挨拶

老健を地域づくりの中心に

～全国大会での学びを生かして

去る２０１８年10月17～19日の３日間「彩ろう！豊かな高齢社会を～老健は地域づくりの担い手です～」をテーマに平成時代結びとなる第29回全国介護老人保健施設大会埼玉は、皆さま方のご支援を賜り成功裏に終えることが出来ました。衷心より厚く御礼申し上げます。全国津々浦々から大宮の地に会員が集い、参加者総数４５００余名、総演題数１０９７題に達し、日頃の研究成果に活発な議論が繰り広げられました。

現在我が国が抱える少子高齢化社会、看護・介護職員不足、障がい者やこどもの福祉環境問題など様々な課題の中で、平成30年度より本格的に地域包括ケアシステムの構築強化、各郡市町村自治体による地域支援事業が始動しております。このような状況を踏まえ、開会式では上田清司知事と埼玉県医師会の金井忠男会長から「埼玉からのメッセージ」を頂戴致しました。

本大会で私たちは３つのテーマを柱に全国の皆さまに発信しました。１つは、地域づくりで「老健が中心となる地域づくり」、２つ目がロボット導入で「ＡＩ・ロボットは介護をどう変えるか？」、３つ目が特別企画の防災減災で「災害時に頼りにされる老健をめざして」のシンポジウムを開催しました。漆原　彰名誉会長には「地域に選ばれる老健になるために」の演題で、老健の原点と時代背景をふまえ将来のあるべき姿について講演をいただきました。

市民公開講演では、我が埼玉の偉人渋沢栄一の五代目の子孫である渋澤　健氏から「渋沢栄一の論語と算盤で未来を拓く」、毒蝮三太夫氏と小谷あゆみ氏を迎え「埼老健介護百人一首の取り組み」、気象予報士の南　利幸氏には「目からうろこの天気予報～近年の日本における異常気象について～」と題し、わかりやすく天気予報を解説していただきました。

さらに、ソニックシティに隣接する鐘塚公園では、埼玉県Ｂ級グルメのしゃもめし・味噌ポテト・太麺焼きそば・里芋コロッケバーガーなど22品目を10店舗で味わっていただき、またたく間に完売となりました。福祉・医療機器展では、スタンプラリーを行い１００社余りの出店ブースからのスタンプを集めることにより、スイーツの提供と福引抽選会を実施し大反響を得ました。

この度の埼玉大会は協会にとりましても大変意義ある経験ができ、多くの事を学ぶことができました。これからの運営にいかしていく所存です。改めましてこの３日間全国各地からご参集いただきました皆さま方に御礼申し上げます。

公益社団法人
埼玉県介護老人保健施設協会
会長　小川 郁男

平成30年度「公益社団法人埼玉県介護老人保健施設協会会長表彰」受賞者

永年勤続（62名）　　五十音順（施設名）

施　設　名	氏　名	施　設　名	氏　名
あさがお	佐藤めぐみ	埼玉メディカルセンター附属介護老人保健施設	板東　順子
あさがお	小沼　修一	埼玉ロイヤルケアセンター	石島　英恵
彩の苑	難波　展一	埼玉ロイヤルケアセンター	勝沼　利江
彩の苑	藤本　順子	翔寿苑	小野寺恵美子
いこいの家	猪八重　亨	翔寿苑	岩野　亜紀
いこいの家	原　宏美	尚和園アンシャンテ	加藤　弘文
いづみケアセンター	小澤　則子	尚和園アンシャンテ	福島　透
いづみケアセンター	臼井　直美	草加ロイヤルケアセンター	熊田　真治
いるまの里	山崎　幸男	ちとせ	丹野　行子
いるまの里	佐々木京子	ちとせ	高浜　美樹
うらわの里	宮下ひとみ	鶴ヶ島ケアホーム	箕浦　紀彦
うらわの里	袴田　庸平	鶴ヶ島ケアホーム	西尾　幸子
鶴寿の里ナーシングホーム	大熊　邦夫	なでしこ	濱中　信世
カノープス☆羽生	野本　智子	なでしこ	新井　慎二
カノープス☆羽生	加藤　瑞貴	なのはなの里	関根　照義
上福岡リハケアセンター	井元　志保	なのはなの里	髙橋美奈子
上福岡リハケアセンター	中原　美穂	虹の園	渡部　眞弓
北埼玉ヘルスケアビレッジ	高　範守	虹の園	横村かおる
北埼玉ヘルスケアビレッジ	菊池　絹枝	はつらつ	橋本　幸子
きんもくせい	加藤　章子	はつらつ	富田　哲
きんもくせい	土屋　英樹	はなぶさ	濱川　恵美
グリーンビレッジ安行	佃　市子	はなぶさ	安藤登美子
グリーンビレッジ安行	原山　歩	東松山市総合福祉エリア	山田　和彦
ケアステーション所沢	榎本　裕子	東松山市総合福祉エリア	堀越　京子
ケアステーション所沢	山田　綾子	本庄ナーシングホーム	森田　香里
ケア・ビレッジシャローム	長尾　考真	本庄ナーシングホーム	堀合　崇
ケア・ビレッジシャローム	網野　昭枝	みどうの杜	鈴木　光明
厚生会川口ケアセンター	谷　眞知子	みやびの里	治部　禮子
厚生会川口ケアセンター	佐々木美津子	みやびの里	塩津　操美
高齢者ケアセンターゆらぎ	中村　晃子	むさしの苑	遠藤　静江
高齢者ケアセンターゆらぎ	佐々木有里子	むさしの苑	仲宗根淳子

敬称略

介護現場から
お伝えする

腰痛予防〔第一回〕

体の動かし方を考える

はじめに

このコーナーでは、介護現場における「腰痛予防」のノウハウの一部を、三回シリーズで皆さんにお伝えいたします。

姿勢・体の動かし方について考える

日常生活や仕事・運動などの場面で、「物を持ち上げるとき」に腰痛になることが多いようです。「膝を伸ばしたまま腰を曲げて遠くのものを持ち上げる」姿勢は、腰痛になりやすい代表的な姿勢です（**写真①**）。

それに対して、スクワットのように「上半身を起こしたまま膝を曲げて物を近くに引き寄せてから持ち上げる」姿勢は、腰に負担のかかりづらい姿勢とされています（**写真②**）。しかし足の力が弱い人にとっては、バランスを崩しやすかったり、疲れやすいといった欠点があります。

写真①
腰痛になりやすい姿勢

写真②
腰に負担のかかりづらい姿勢

姿勢の安定について考える

そこで姿勢の安定に重要な「支持基底」と「重心」について考えます。

「支持基底」とは、床に接している面（立っているときは両足の足底とそのあいだの部分を合計した面積）のことで、広いと安定し、狭いと不安定になります。「重心」は成人が立っているときはへその下あたり（骨盤の中）にあり、低いと安定し、高いと不安定になります。大仏像を見ると、べったり座って広い支持基底面を作り、重心も低くとても安定していますが、「動く」という点から考えると安定しすぎていることになります。

立っている姿勢では、両足は肩幅程度に広げまた前後にずらすことで、ほどほどに支持基底を広くし、また両膝を軽く曲げることでほどほどに重心を低くして、「ほどほどに安定した姿勢」を作ります。これが「重いものを持つときの基本姿勢」としてお勧めします（**写真③**）。

写真③
重いものを持つときの基本姿勢

押す力を活用する

ここでお勧めしたいのが、手や足で設置面を「押す力」を活用することです。**写真④**は右手と右膝をベッドについて「押す力」を活用することで、左手で枕を持つときに腰に負担がかからないよう工夫している様子です。

写真④
「押す力」の活用例

まとめ

以上をまとめると「腰に負担をかけずに物を持ち上げる」時のポイントは

①上半身を起こしたまま膝を曲げて、ものを近くに引き寄せてから持ち上げる。

②支持基底はほどほどに広く、重心はほどほどに低くする。

③「押す力」を活用する。

となります。是非ご活用ください。

（プライムケア川越 副施設長 松本宏明）

全国大会開催！

第29回 全国 介護老人保健施設大会 埼玉

「彩ろう！豊かな高齢社会を」

～老健は地域づくりの担い手です～

10月17日(水)～10月19日(金)の3日間、さいたま市の大宮ソニックシティで開催された第29回全国介護老人保健施設大会埼玉では、県内外から4500人を超える参加者と、役員・運営スタッフ326名、合計5000名ほどの参加を得て盛会のうちに進められました。今大会では老健だけでなく特養や大学・専門学校学生の参加も見られ、大きな広がりを見せております。

開会式では、小川大会会長から今大会は平成最後の大会であり、2025年の超高齢化社会に向けて推進してきた地域包括ケアシステムの実現強化のため老健の在宅支援機能が重視され、様々な専門職を抱える老健こそが地域と強く結びつき、住民主体の地域づくりの要となっていくと力強い言葉を述べられた。

主催者である全老健の東憲太郎会長からは、平成30年度の改定では、とても大きなインパクトのある改定がなされたとあり、特に5段階の機能分類については在宅支援・在宅復帰に力を入れれば入れるほど段階が上がる希望のある改定だったと述べられた。

来賓の諸先生方からの祝辞も多数いただきました。

全老健の漆原名誉会長からは、「地域に選ばれる老健になるために」というテーマで講演いただいた。選ばれる施設になるためのポイントを自らの実践をもとに3つにまとめていた。1つ目は即時対応、2つ目は断らない、3つ目は緊急時の保証とのことで実践をもとに語られる言葉には重みが感じられた。

昼にはランチョンセミナーが開催され、事故や賠償への対応についてや転倒転落防止について、情報共有と効率化についてのセミナーが行われた。

シンポジウムⅠでは「平成30年度介護報酬改定とこれからの老健」と題して行われた。やはり中心となったのは超強化型老健についてであった。また、最後に今回改定の柱の1つである地域貢献活動についても討論がなされた。

シンポジウムⅡでは小川大会会長が座長となり「老健が中心となる地域づくり」について討論がなされた。老健が地域との絆を深めつつ、老健の役割として元気な高齢者を増やしていくことが重要であると述べられた。

シンポジウムⅢ「老健における介護人材について考える」では、外国人材の受入が大きな論点となった。また、介護の魅力についても語られ、介護の持つイメージを変えていく必要があるとのことであった。

シンポジウムⅣ「AI・ロボットは介護をどう変えるか」では、介護人材が不足しており、ロボットの力が必須である。しかし実際に介護をしている人たちへのアンケートでは驚くことに積極的な意見は半数に満たなかった。本格的なロボットの導入までは、費用面などまだまだ乗り越えなければいけない壁が多いようである。

大会の講演の中には、参加者以外の市民に公開されている市民公開講演がある。その1つが「郷土の英雄渋沢栄一の『論語と算盤』で未来を拓く」である。資本主義の父と言われた渋沢栄一の考え方を、五代目の子孫である渋澤健氏に講演いただいた。

「埼老健介護百人一首の取り組み」では、NHK介護百人一首で司会者の毒蝮三太夫氏と小谷あゆみ氏が介護短歌をユーモアのあるトークで紹介し、多くの方が短歌の思いに共感し大きな盛り上がりをみせていました。そして大会閉会式前に行われた「目からうろこの天気予報～近年の日本における異常気象について～」では、テレビでお馴染みの気象予報士南利幸氏の講演であった。天気予報の見方を面白おかしく口演していただいた。この3つの市民公開講演には、多くの市民の方々に参加いただくことができて大盛況となった。

埼老健の特別企画では、「防災減災の取り組み」として、被災地域の老健や特養の方をお呼びしてシンポジウムが行われた。実際に被災された方の声を聴き、これからの防災減災に何が必要かを考えるきっかけとなった。また、この特別企画では寸劇が行われ、埼老健の安否確認システムの紹介とその有用性を熱演されていた。

今大会の口演発表は1000演題、ポスター発表は97演題と大変多くの演題が全国から集まりました。参加者は数が多く見切れないながらも、全国の仲間の経験は大変に参考になるといって忙しく聴いて回っていた。

今大会では今までにない取り組みとして3つの要素があった。1つ目は、受付の混雑を緩和するためのQRコードを使った受付であった。実際の様子からも混雑がかなり緩和されていたと感じられるものであった。2つ目は携帯で見られる大会用アプリの活用。これによって抄録など荷物を持たずとも大会の内容が分かるようになった。その他プッシュアップ通知による当日の情報発信も可能となる画期的な取り組みも行った。3つ目は機器展示ブースで行われたスタンプラリー。これは展示業者を楽しく万遍なく回れるように企画し、景品にはスイーツを用意した。展示業者の方々からは例年に無く多くの参加者が来たとのことであった。このスタンプラリーにはもう一つの要素がありスイーツと一緒に抽選券を配り大会閉会後に豪華景品が当たる抽選会を実施したことで、大会終了まで多くの人が残って最後の最後まで盛り上がりをみせながら終了を迎えた。

研修会報告

「老健だからできる重度者の受け入れ」についてのシンポジウムを開催して

「医療・介護・リハビリ」を一体的に提供できる老健で、各職種が地域で生活する「重度者」の受け入れを担うために何をすればよいのか?を理解するため30年度職域別研修会で「自分達の役割」について話し合っていただきました。またその成果を多職種チームアプローチ研修会において発表して、多職種でそれぞれの職種の役割を確認・共有できる場を設けていただきました。今回はその内容をお伝えします。

介護職員研修会

いづみケアセンター
介護福祉士
村田　裕一

介護職は、施設の中で中核を担っている職種だと思っています。なぜなら一番利用者様の近くで寄り添え、利用者様のことを考え想い、行動できる職種だからです。

介護職を行っていく中で大切なことは、①その方の身体状態や精神状態を知り、その人らしい生活とその方に関わる方の援助をしていくこと。②他職種とのパイプ役として施設内の連携を支えること。③介護職のプロとして仕事に取り組むことの三点だと思っています。

自分の仕事の重要性を知り、利用者様のことを考え、チームの意見をまとめて行動（ケア）をしていかなければ利用者様の生活は変わりません。施設に来られた利用者様が今日どう過ごすかは、私達介護職にかかっていると言っても過言ではありません。今までも多くの利用者様と気持ちを共有して笑顔に変えてきたと思いますが、これからも私達の想いと行動で大勢の利用者様を笑顔に変えていきましょう！

看護職研修会

高齢者ケアセンター
ゆらぎ
看護師
丹野実佐子

今回は、埼玉県看護協会と共催で研修を行った内容を基にテーマである「老健だからできる重度者の受け入れ」について看護の立場からお話しさせて頂きました。

「老健施設における看護」とは介護施設は生活の場であり「自宅ではない在宅」ともいえると思います。高齢者が一方的にケアを受けるという場ではなく、独自性を持つ人々、主体性のある人々である「生活者」の視点を持ってケアすることが求められます。

次に「老健での看取りについて」では、老健

の機能には「在宅復帰・在宅支援」があげられます。その中に「看取り」が「在宅支援」として入っていてもいいのではないでしょうか。在宅で生活しながら、通所サービス・ショートステイを利用し、在宅生活が困難となれば、入所し生活を支える。希望により最期までケアし看取る。そして最後は自宅へ戻ります。この一連の流れが在宅支援としての老健の役割の1つではないでしょうか。看取りを行うには、多職種でチームとして取り組む必要があります。そして、利用者個々に合わせた看取りを行い、家族と職員共に後悔しないようにケアしていくことを忘れないでください。

相談関係職員研修会

小江戸の郷
支援相談員
吉野まどか

相談職が考える重度者とは、必ずしも身体機能や認知機能の重さをさすわけではありません。いかに社会的問題（生活困窮や身寄りがない等）を抱えているかという視点で判断します。また、相談を受けるという職種上、専門的な視点のほかにも家族や地域の方が考える重度者の視点や、入所調整の難しさなども考慮に入れています。

相談職は施設の相談窓口となります。各職種が考える重度者が老健入所を検討した場合、窓口である相談職が否定的であってはなりません。常に「支援をあきらめない」姿勢を持つことが重要であると考えています。各人各様の想いに寄り添い、冷静かつ広い視野で適切な支援につなげることが必要です。施設視点のみで考えるのではなく、本人にとって最良の選択の手助けができればと思います。

今回の研修会では重度者の受け入れについて検討する貴重な機会を頂きました。改めて関係者の皆様に感謝申し上げます。

栄養関係職員研修会

みどうの杜
管理栄養士
和多　勝弘

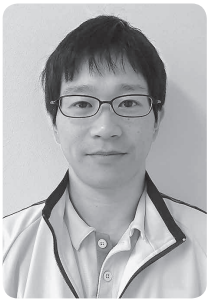
高齢者の栄養管理を担う栄養職から見る重度者とは、「認知症」「摂食・嚥下障害」「低栄養」の3症状が挙げられます。これらのいずれの状況も、口からうまく食べることができないのが問題点です。

- 認知症が進行すると、食物の認識や食べ方がわからなくなる。
- 高齢になるにつれ、摂食機能の衰えも生じ、固いものが噛めなくなる。
- 水分や食べた物でむせ込む頻度が増え、うまく飲み込めなくなる。
- 高齢者世帯や独居では、食事量の減少や偏りのある食事傾向が強くなる。
- 病気や骨折での入院からくる食事意欲の低下がおこる。

などから低栄養が生じ、重度者と言える高齢者は、今後ますます増えると考えられます。

このように様々な問題を抱えた高齢者に対し、自助食器の活用、調理形態の工夫、水分のとろみづけ、栄養補助食品の活用など対応することで個々人の要望に合った「栄養ケア」を提供していく必要性があります。個別ケアのできる栄養士は必要不可欠な立場になると考えられます。

リハビリ関係職員研修会



ファインハイム
作業療法士
木森　寛

今回の研修会ではリハビリ職にできることと共に、平成二七年度より訪問リハビリ、特に重度者・終末期の分野で活動されている療法士の方とリハビリに関わる職員は何ができるかを考えながら実施してきた四年間の研修内容を発表しました。

研修内容として「終末期ケアとは」から始まり「病態変化に応じたリハビリテーション」「ポジショニング」「ワールドカフェ」などを学びました。

リハビリ職としての関わり方は「状態変化に合わせたリハビリテーション」「姿勢・ポジショニングへの介入」があります。「姿勢やポジショニングへの介入」では、何のためにこの用具を用いているかスタッフ全員の共通理解が必要という事と、関わる全ての職種の協力が大切なポイントとなります。疾患やその時の体調、時間帯など様々な要因で必要なポジショニングは変化します。ポジショニングは目的に合わせて随時変更していくものです。関わる全ての職種の共通認識のもと、実施していければと考えます。

多職種チームアプローチ研修会

大宮ナーシングピア
看護師
渡辺　清光

多職種によるチームアプローチ研修では、例年講師による講義を中心に行っていますが、30年度は重度者の受け入れをテーマに、初めてシンポジウムの開催となりました。埼玉県内の老健施設で勤務する、介護・看護・リハビリ・相談・栄養の五職種の方をシンポジストに迎え、各職種の重度者の見解や、受け入れ後の対応などそれぞれが思うアプローチ方法等を発表していただきました。参加者からは「五職種の考えを知り、重度者についての概念が幅広いことを知った」「多職種の役割を確認することができた」等の声が聞かれました。また、参加者とシンポジストを交えてグループワークも行いました。どのグループも活発な意見が出され、とても有意義な話し合いになったのではないかと思います。

私は今回研修の企画・進行する立場ではありましたが、多職種連携の大切さを改めて実感しました。今後も様々な研修を企画していきたいと思います。

新会員 施設紹介

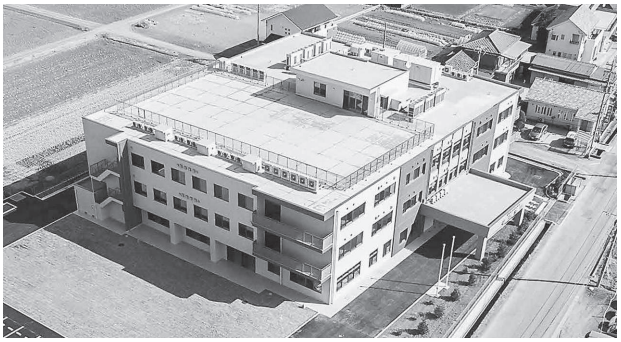
医療法人泰一会　介護老人保健施設

はつかり

〒350-0857　埼玉県川越市松郷821-1
TEL 049-298-8277　FAX 049-298-8257
利用料　多　床　室：78床12万程度
従来型個室：22床22万程度

当施設は、平成30年４月１日に、医療法人泰一会の三つ目の老健施設として川越市松郷に開設しました。「明るく・元気に・真心こめて」をモットーに利用者様の尊厳を守り、安全・安心・快適な環境を提供することにより、今日を楽しく生き、希望を明日へつなげるようお手伝いいたします。

家庭的な雰囲気の中で介護を提供することや在宅ケア支援の拠点となることを目指し、自宅生活の維持・継続を図る通所リハビリテーションを中心に、月々の行事・レクレーション・カルチャー教室の開催など、ボランティアの方々との交流を通じて、利用者様やご家族、地域の皆様方に貢献していきたいと考えております。



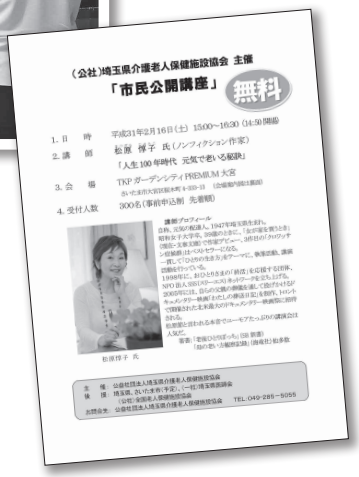
第1回 市民公開講座を開催しました

2月16日(土)に行われた市民公開講座は、司会の平川理事の穏やかな口調で開会しました。

始めに小川会長の挨拶があり、先に行われた全国大会においてご尽力くださった方々に対して、万感の思いを込めた御礼の言葉がありました。

その後、会長表彰の授賞式が行われ、別掲の永年勤続者62名、埼老健介護百人一首は333作品の中から、小谷あゆみ賞2名を含む優秀作品10名が表彰されました。

30年度は、全国大会が埼玉で行われ、県大会が中止となったため、市民公開講座が単独開催となりましたが、多くの方の参加があり大盛況の中で開催されました。



松原先生の講演をお聴きして

松原先生の講演を聴講して、印象的に残ったのは、元気に老いるということでした。健康不安に恐れ、おしゃれをする楽しみや、好きなことに没頭する時間の楽しみを奪われる余生の過ごし方は実にもったいない、そう思いました。

自身も欧米の高齢者施設を訪れた際、おしゃれな服装で自分の時間を過ごす。そんな時間の過ごし方に憧れました。そこには、「今日は○○をしましょう」などといったことはなく、思い思いの時間に介助者が付き添うという環境でした。施設という概念を覆されたことを覚えています。

自身の老後の過ごし方、そして、今、共に時間を過ごさせてもらっているご利用者の過ごし方を考えた時、自分にできることはなんだろうと思わずにはいられない、貴重なお話しでした。

埼老健介護百人一首 優秀歌

話せねど瞳で見せるさびしさに「またね」と言えど立ち去り難し
石田　明子（いづみケアセンター）

彼岸やぐら百才ババの太鼓打ちホームの踊り手笑顔満開
大久保　久江（いづみケアセンター）

稀勢の里四股に張り手に力持ち私に少し力を下さい
鬼頭　吾志也（上福岡リハケアセンター）

「嫌だよ」とあれだけ拒否した入浴も入れば誰より長湯のあなた
高坂　裕華（はなぶさ）

夜勤明け無事に終わって安堵する顔はパンダで足は象
桜井　祐美子（かみさとナーシングホーム）

穏やかな優しい顔で「ありがとう」その微笑みが私の励み
佐藤　恵美（いづみケアセンター）

片麻痺の吾に向かひ何時までも介護すると言ふ夫に生かされ三年目の秋
西久保ユキ子（いるまの里）

小谷あゆみ賞

寝たきりの貴方の指が職員の襟元伸びて直すは母の顔
濱中　信世（なでしこ）

小谷あゆみ賞

送迎車待つ秋空に雲流れ秋風に乗って香る金木犀
福原　良子（埼玉ロイヤルケアセンター）

毎日が「初めまして」であろうともあなたの笑顔は私の活力
松川　美咲（なでしこ）

（五十音順）

ねたきり0（ゼロ）への10か条

- 第1条　脳卒中と骨折予防　ねたきり　ゼロへの第一歩
- 第2条　ねたきりは　ねかせきりから作られる　過度の安静逆効果
- 第3条　リハビリは早期開始が効果的　始めようベッドの上から訓練を
- 第4条　暮らしの中のリハビリは　食事と排泄、着替えから
- 第5条　朝起きて、まずは着替えて身だしなみ　寝・食分けて生活にメリとハリ
- 第6条　「手は出し過ぎず目は離さず」が　介護の基本　自立の気持ちを大切に
- 第7条　ベッドから移ろう移そう車椅子　行動広げる機器の活用
- 第8条　手すり付け　段差をなくし　住みやすく　アイデアいかした住まいの改善
- 第9条　家庭でも社会でも　喜び見つけ　みんなで防ごう閉じこもり
- 第10条　進んで利用　機能訓練　デイ・サービス　寝たきりなくす人の和　地域の和

編集後記

平成最後の全国介護老人保健施設大会が埼玉県で行われました。私もスタッフとして参加したことにより、これまで何気なく参加していた大会のスタッフの方のご苦労が本当に良くわかりました。今後の全国大会でスタッフの方々を見た時は、心の中で「頑張れ～」と言っていることでしょう。さて、今号からは、腰痛予防の連載を始めてみました。次号に続きますのでこちらも楽しみにしていただきたいと思います。本誌作成にあたり、お時間のない中ご協力いただいた方々に感謝を申し上げ、編集委員共どもこれからも頑張ってまいりますので宜しくお願い致します。（柳田）

埼老健

毎月15日は いい介護 老健の日
利用者の幸せサポート 埼老健

公益社団法人 埼玉県介護老人保健施設協会

（事務局）〒350-2213 埼玉県鶴ヶ島市脚折1877番地
介護老人保健施設　鶴ヶ島ケアホーム内

TEL. 049-285-5055　　FAX. 049-285-5510

URL:http://saitamaroken.jp/　E-mail:sairoken@manjyukai.or.jp